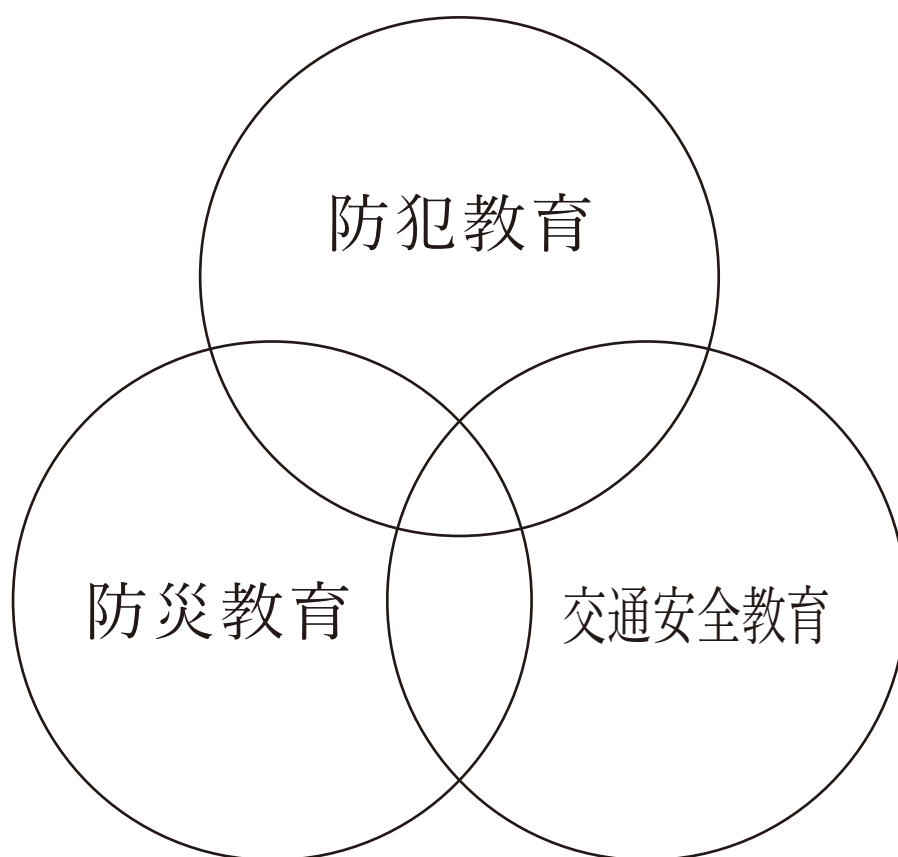


北海道実践的安全教育モデル構築事業

安全教育モデル

～学校における安全教育・安全管理の充実に向けて～



北海道教育庁学校教育局生徒指導・学校安全課

令和5年（2023年）2月

はじめに

児童生徒が生き生きと活動し、安心して学べるようにするためには、児童生徒の安全の確保が保障されることが不可欠です。

東日本大震災からの時間の経過とともに震災の記憶が風化し学校安全に係る取組の優先順位が低下することが危惧されています。しかしながら、今後発生が懸念されている日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震、全国各地で発生している豪雨等の自然災害の状況、犯罪被害や交通事故の発生など、児童生徒の安全を脅かす様々な事案が全国で相次いで起きています。

こうした中、国においては「第3次学校安全の推進に関する計画」を策定しました。第3次計画では、学校安全を推進するための方策として、学校安全に関する組織的取組の推進、家庭、地域、関係機関等との連携・協働による学校安全の推進、学校における安全教育の充実、学校における安全管理の取組の充実等に関し具体的な取組を進めることにより、学校における安全文化の醸成を図ることが求められています。

北海道教育委員会では、本年度、東川町教育委員会、紋別市教育委員会、羅臼町教育委員会と連携し、防犯教育、交通安全教育及び防災教育に関する安全教育モデルの構築に向けて、「北海道実践的安全教育モデル構築事業」に取り組み、この度、その成果を「安全教育モデル」として取りまとめました。

学校、市町村教育委員会におきましては、本事業の成果を積極的に活用し、地域・関係機関等と連携し、児童生徒の安全・安心を確保する取組を推進するようお願いいたします。

結びになりますが、安全・安心な学校づくりのため、安全教育モデル構築にご尽力いただきました、東川町、紋別市、羅臼町の関係者の皆様に、心からお礼を申し上げます。

令和5年（2023年）2月

北海道教育庁学校教育局生徒指導・学校安全課長 泉 野 将 司

< 安全教育モデル事例 目次 >

はじめに

目次

事業の概要	．．． 1
◆ 防犯教育	
1 実践的安全教育モデル ～東川町の取組～	．．． 3
2 講評	．．． 9
学校安全アドバイザー 株式会社まちづくり計画設計統括技師 松村 博文 氏	
◆ 交通安全教育	
1 実践的安全教育モデル ～紋別市の取組～	．．． 10
2 講評	．．． 15
学校安全アドバイザー 北海道大学大学院工学研究院教授 萩原 亨 氏	
◆ 防災教育	
1 実践的安全教育モデル ～羅臼町の取組～	．．． 16
2 講評	．．． 21
学校安全アドバイザー 北海道教育大学釧路校教授 境 智洋 氏 気象庁釧路地方気象台防災気象官 矢萩 知子 氏	
令和4年度北海道実践的安全教育モデル構築推進委員会名簿	．．． 23

令和4年度「北海道実践的安全教育モデル構築事業」(文部科学省委託事業)

目的 防災教育、交通安全教育及び防犯教育等について、指導方法や教育手法の開発・普及、通学時を含めた学校における児童生徒等の安全確保体制の構築・普及及び専門家による指導・助言等を受ける取組を実施し、「北海道実践的安全教育モデル」を構築して、全道に普及させ、学校における安全教育・安全管理の一層の充実を図る。

4月

モデル地域における取組内容の計画(事業計画書の提出)

7月

第1回安全教育モデル構築推進委員会(取組内容の確定)

取組

防犯教育

- 児童や保護者、地域住民の参加による「安全マップ」の作成
- 警察官等関係機関と連携した防犯教室・防犯訓練の実施
- 中核教員対象の防犯研修会
- 防犯リーフレット等の作成
- 事前・事後アンケートの実施

交通安全教育

- 通学路の合同点検の実施
- 合同点検結果に対する関係機関との改善策等の意見交換会
- 警察官等関係機関と連携した交通安全教室の実施
- 自転車に関する安全指導等
- 事前・事後アンケートの実施

防災教育

- 地域の実情に応じた実効的な避難訓練の実施
- 保護者への引渡し訓練の実施
- 地域・関係機関との連携による「1日防災学校」の実施
- 防災マップ等の作成
- 事前・事後アンケートの実施

取組の流れ

1月

「安全教育モデル(授業)指導案」の作成と「授業実践」

第2回安全教育モデル構築推進委員会(取組成果及び改善策等の発表)

効果

- 地域における安全教育に関するネットワークの構築又は既存のネットワークの活用・活性化
- 各学校における「危機管理マニュアル」・「学校安全計画」・「安全マップ」等の見直し・充実
- 専門的な指導助言を踏まえた安全教育・安全管理体制の充実と徹底(安全教育の教育課程への位置付け)

ゴール

安全教育モデルの全道への普及及び児童生徒の命を守り抜くための体制の構築

モデル地域への支援

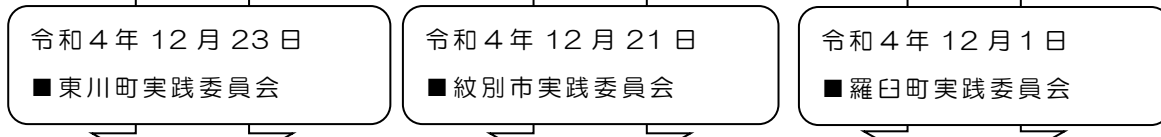
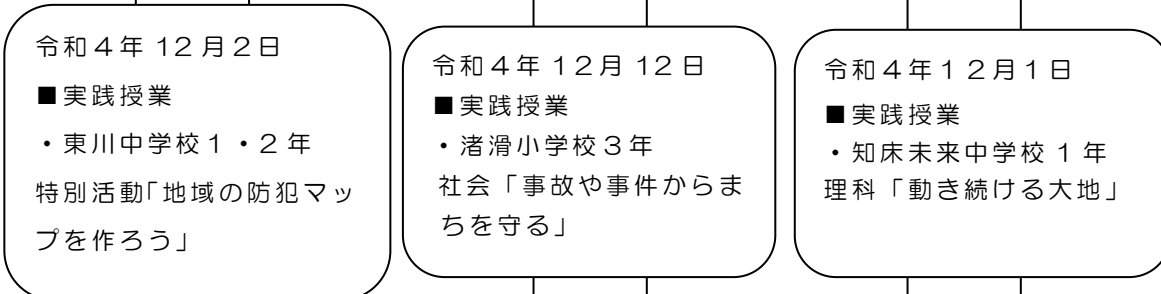
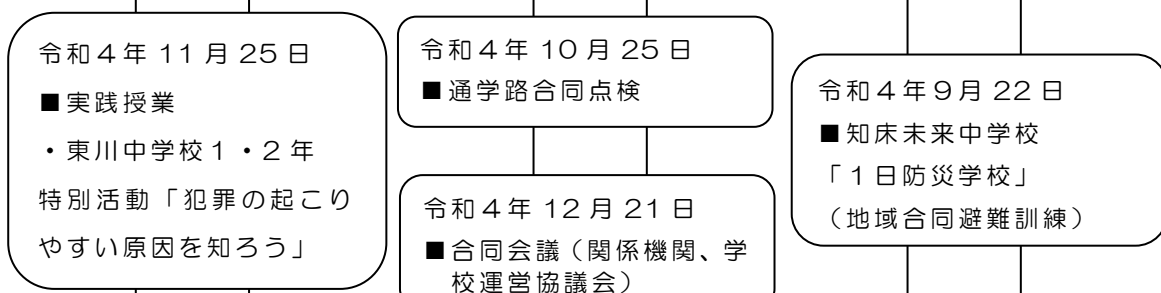
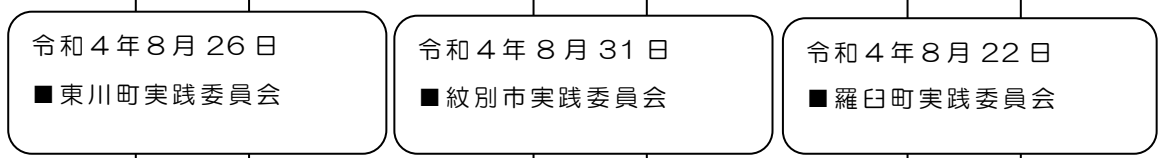
本庁
事業の全体構想及び成果の普及(訪問～原則2回)

教育局
事業内容の整理及び進捗状況の管理(訪問～モデル地域と協議し、数回)

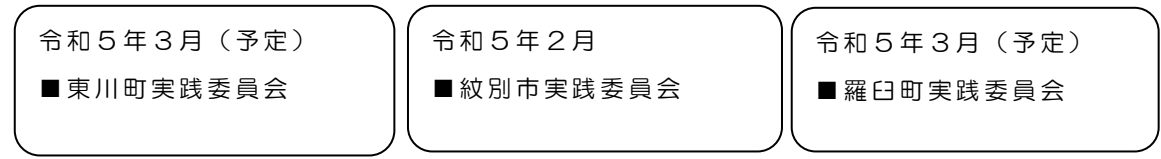
アドバイザー
事業の取組向上のための支援(訪問～モデル地域と協議し、数回)



**令和4年(2022年)7月4日
第1回北海道実践的安全教育モデル構築推進委員会**



**令和5年(2023年)1月18日
第2回北海道実践的安全教育モデル構築推進委員会**



防犯教育

～ モデル地域 東川町 ～

1 実践的安全教育モデル（防犯教育）

(1) モデル地域について

東川町は、1985年の写真文化首都宣言に伴う雄大な自然環境と風光明媚な景観を求める観光客の増加や、児童生徒のスマートフォンやパソコンの利用普及、進学等に伴う行動範囲の広がりなど、長期的な視点による児童生徒の防犯意識の向上に向けた取組の必要性が認められた。

そこで、教育計画において、安全教育の目標を定め、PTA及び関係団体等との連携を密に行うなど、防犯教育に積極的に取り組んでいる東川中学校を拠点校として、小・中学校が連携した学校安全推進体制を構築するとともに、地域と学校で安全教育について共通認識と情報共有を行いながら、推進モデル地域内の学校安全に関する意識の向上を図ることを目指し、本事業を推進した。

これまでの取組を踏まえ、次の3ポイントを示す。

(2) 実践的安全教育モデルのポイント

【モデルPOINT①】 指導方法や教育手法の開発・普及

○汎用サービスを活用した防犯マップの作成

モデル地域の取組 ～地図アプリを活用した防犯マップの作成

東川町内の防犯に関する児童生徒の意識の向上を図ることを目的に、1人1台端末を活用し、東川中学校では、生徒が同時に書き込みや閲覧できる地図アプリで防犯マップを作成した。

地図アプリのマイプレイス機能を使い、防犯上注意する箇所を地図上にマーキングし、マーキングした箇所のストリートビューを見ることができるよう設定した。また、サイド画面には、「街灯が少なく暗い」「民家が少ない」等のコメントの一覧が表示されるようにし、コメント欄をタップすると、その場所に移動することができるようにした。また、URLを共有した保護者や関係者なども同時に閲覧ができるようにした。



生徒が主体的に考えながら作成



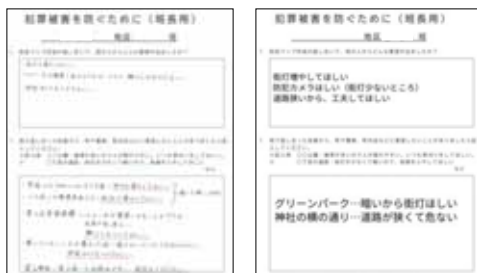
汎用性のある防犯マップ

【モデルPOINT②】地域の連携による安全確保体制の構築

○地域の組織等と連携した防犯等、安全に関する取組

モデル地域の取組 ～関係機関への提案

地域と学校で安全教育について共通認識と情報共有を行うことを目的に、生徒の要望を関係機関と共有する取組を行った。生徒は、地図アプリを活用した防犯マップの作成を通して、より安全な町づくりに向けた犯罪被害を防ぐための手立てを考え、要望としてまとめた。要望書は生徒会を通して、各町内会や東川町、警察などの関係機関に提出し、今後、関係機関において防犯の取組に活用する予定である。



犯罪被害を防ぐための要望書



要望内容の精査

【モデルPOINT③】学校間で連携した取組の推進

○小・中学校が連携した学校安全推進体制の構築

モデル地域の取組 ～小中連携による防犯マップの作成

小学校では、児童が危険予測能力や危険回避能力を身に付けることを目的に、中核教員が中心となり、実地調査を行い、防犯マップを作成した。

中学校では、各小学校で作成した防犯マップを加除修正し、より詳細かつ広範囲の防犯マップを作成した。この活動を通じて、生徒は、防犯に関わる視点を一般化し、誰もが利用しやすい防犯マップという未来志向の表現をすることにより、危険予測能力や危険回避能力を高めることを目指した。



各小学校が作成した防犯マップ



実地調査の様子

防犯教室（特別活動）学習指導案

日 時：令和4年11月25日（金）6校時

生 徒：第1学年、第2学年

指導者：各学級担任

1 活動名 「犯罪の起こりやすい原因を知ろう」

2 本時の目標（1／2）

犯罪や危険な場所、条件とは何かを考えまとめることができる。

3 展開

段階	学習内容	教師の働きかけ	評価
導 入	○小・中学生が遭遇する可能性のある犯罪はどのようなものがあるかについて考える。	○東川町に限定せず、ニュースなどで見たり聞いたりしたことがないか問いかける。	
展 開	○資料を参考に、小・中学生が犯罪被害に遭う場所や要因について学習シートに記入し、話し合う。 ・小学生が、公園での被害が多いのはなぜか。 ・共同住宅で被害が多いのはなぜか。 ・中学生は、駐車場や駐輪場で被害が多いのはなぜか。	○1人1台端末に資料を提示し、個人思考をさせ、グループで話し合わせる。	
終 末	○話し合いを基に、どのような環境要因が重なると犯罪に遭いやすいのかまとめる。 ○資料を基に、犯罪を防ぐための3要素（領域性、監視性、抵抗性）について知る。 ○本時の学習について、振り返りを行う。	○ポイントとなる言葉を板書し、整理する。 ○1人1台端末に資料を提示する。 ○デジタルポートフォリオで、本時の学習の振り返りをさせる。	資料の読み取りや話し合いから、犯罪に遭いやすい環境要因について整理し、まとめている。

防犯教室（特別活動）学習指導案

日 時：令和4年12月2日（金）6校時

生 徒：第1学年、第2学年

指導者：新 出 秀 之

1 活動名 「地域の防犯マップを作ろう」

2 本時の目標（2／2）

前時の学習内容を活かし、防犯マップを見直すとともに、担当箇所の要望をまとめることができる。

3 展開

段階	学習内容	教師の働きかけ	評価
導 入	○犯罪に遭いやすい環境要因について、前時の学習を振り返る。	○デジタルポートフォリオの内容を振り返らせ、犯罪を防ぐための3要素を提示する。	
展 開	○出身小学校区に分かれ、小学生が作成した防犯マップに危険箇所やその要因について箇所修正する。 ○作成した防犯マップの危険箇所を基に犯罪被害を防ぐための手立てについて話し合い、要望書にまとめる。	○本時の内容と手順を説明し、グループに分かれ活動させる。 ○グループごとに要望書を作成し、提出させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・犯罪が発生する環境要因という観点から、自分の住む地域を見直すことができたか。 ・犯罪を減らすために、どのような改善策があるか考えることができたか。
終 末	○本時の学習について、振り返りを行う。	○デジタルポートフォリオで、本時の学習の振り返りをさせる。	

2 実践を振り返って

実践を通して、次の成果及び課題が明らかになった。

1 汎用サービスを活用した防犯マップの作成

【成果】

- ・児童生徒が防犯について考えるきっかけとなった。
- ・校区の調査による実感を伴った学びとなり、防犯意識が高まった。

【課題】

- ・防犯教育と交通安全教育の内容を整理すること。
- ・教育課程への位置付けを工夫すること。

2 地域の組織等と連携した防犯等、安全に関する取組

【成果】

- ・児童生徒の安全確保に関わっている様々な人たちや関係機関の存在に気付くことができた。
- ・町内にある犯罪につながる場所や危険箇所などに目を向ける意識が高まった。

【課題】

- ・小・中学校の連携に加え、家庭・地域を巻き込んだネットワークを構築すること。
- ・学校から地域や関係機関に連携を働きかけること。

3 小・中学校が連携した学校安全推進体制の構築

【成果】

- ・児童生徒に身に付ける力を明確にすることで、系統性のある学習を展開することができた。
- ・小学生が作成した防犯マップに中学生が手を加えることで、危険箇所に関する情報の共有化を図ることができた。

【課題】

- ・小・中学校や各小学校の連携強化を図ること。
- ・防犯、防災、交通安全に関する指導の系統性を検討すること。

〔今後の取組について〕

- ・本年度の取組を各学校の教職員間で共有するとともに、今後の本事業の継続実施に向けて、内容を精査し、よりよいプログラムを開発していきたい。
- ・1日防災学校へ内容を組み込むなど、教育課程への具体的な位置付けについて検討していきたい。

3 講 評

学校安全アドバイザー：株式会社まちづくり計画設計
統括技師 松村 博文 氏

1 取組全体について

- 今回の東川町の取組は横展開しており、大変高く評価できる。手法とプロセスの面でも優れている。

2 取組の成果について

- 1人1台端末のタブレットで Google マップのマイプレイス機能を活用することによって、自分で作っている感が非常に強くなり良かった。そのことによって子どもたちのモチベーションが上がる。また、保存がきくことやデータを蓄積できることが利点である。紙だとどうしても劣化したり、データは残っているとしても単年度で終わってしまいがちであるが、データは前年度とどう変わったのかを検証できる利点がある。これからの小・中学校でのマップ作りのスタンダードになっていくのではないかとという点でも大きな成果であった。
- 小中の連携は意外とあるが、本当の意味での連携ができた。今回は小学校で作成した防犯マップを中学校で修正し、より詳細かつ広範囲の防犯マップを作成して小学校に戻すという取組を行った。なぜそこが防犯上危ないのかの要因を教えるのは難しいが、中学生が小学生にその要因を教えるというプロセスが明確になった。
- 交通安全とのボーダーをなくすというのがポイントであった。地方は都会に比べて犯罪は少ないが、交通安全に関しては、地方でも意外と危ない目に遭っている。そういう意味では、導入で交通安全を加えて、防犯を考えるという、そのやり方自体が非常に地方になじむのではないかと。交通安全と防犯を一緒に扱うことによって取組のモチベーションを上げることができたという意味でもこの取組は評価できる。
- 今回は、町に対して要望を伝えるところまで実践している。街灯を設置してほしい、道の問題があるなど、町に対して要望を上げたことが一つでも実現することがあれば、自分たちが町づくりに関わることができたという実感が得られる。
- 子どもたちが大人になった時に、町への関与が非常に高まるという教育効果がある。そういう意味でも大きな成果があったことから、手法も横展開できると良いのではないかと感じた。

交通安全教育

～ モデル地域 紋別市 ～

1 実践的安全教育モデル（交通安全教育）

(1) モデル地域について

紋別市は、小中学校の通学路に大型車の交通量が多い主要幹線道路が含まれているとともに、鹿や熊などの野生動物が飛び出す事案が多く発生しており、児童生徒が交通事故の被害に遭う可能性が高い。

こうした状況を踏まえ、拠点校においては、これまでPTAや地域の「子ども見守り隊」の協力を得て「通学路安全マップ」を作成し、学校便りや市の広報誌等により積極的に発信していた。

今年度は、本事業の指定を受け、通学路の安全確保及び児童生徒が日常の危険を予知し、自ら考え、行動する力を高めることができるよう、関係機関と連携した交通安全に係る授業の実践や保護者とともに「通学路安全マップ」を見直すなど、校区内の取組を系統的に実施し、交通安全教育の充実を図った。

これまでの取組を踏まえ、3つのポイントを次のとおり示す。

(2) 実践的安全教育モデルのポイント

【モデルPOINT①】 指導方法や教育手法の開発・普及

○モデル地域における交通安全教育の推進

モデル地域の取組 ～単元「地域の安全を守る」での授業実践

拠点校の紋別市立渚滑小学校において、地域や保護者が事故の未然防止に係る連携・協力した活動についての公開授業を参観日に実施した。

授業では、児童が住む地域と他の地域の取組を比較し、自分の住む地域の特徴や交通安全に対する思いについて話し合った。

話し合いの後、地域の「子ども見守り隊」隊長の講話を聞き、質疑応答を通して、児童は、「いつも自分たちは守られている」ことに気付き、「他にどのような取組があるのか」という問いをもった。

児童は、「子ども110番の家」等の地域の安全を守る活動について理解を深め、交通安全に対する意識を高めた。



【隊長の講話の様子】



【保護者と一緒に話し合う様子】

【モデルPOINT②】地域の連携による安全確保体制の構築

○通学路合同点検の結果を踏まえた安全確保体制の構築

モデル地域の取組 ～関係機関や学校運営協議会と連携した合同点検の実施

児童生徒、保護者や地域住民からの情報に基づき、道路管理者や警察等を含む実践委員会と学校運営協議会が合同会議を開催し、危険箇所をリストアップして対応を協議する合同点検を実施した。

合同点検の結果を受けて、対策が必要な箇所について、各関係機関がどのような対策を行うのかを検討し、アドバイザーからの助言を受け、その結果を学校ホームページに掲載した。

また、合同点検の結果については、学校における通学路安全マップの作成、学校便りによる家庭への注意喚起など、安全教育の推進に活用した。



【関係機関と連携した会議の様子】



【通学路安全マップ作成に係る資料】

【モデルPOINT③】小中連携による持続可能な取組の推進

○モデル地域における小中連携による安全確保体制の充実

モデル地域の取組 ～安全確保に関する持続可能な取組の推進

モデル地域においては、朝の交通安全指導による登下校時の児童生徒の見守りなど、地域の「子ども見守り隊」や学校運営協議会の取組を小中学校で共通して推進しており、その様子をチラシに掲載し、地域に配布している。



【小中連携した交通安全指導の様子】



【地域に配布したチラシ】

交通安全教育 学習指導案

日 時 令和4年12月12日
 児 童 第3学年
 指導者 山崎 紗知子

- 1 大単元名 「地域の安全を守る」
 小単元名 「事故や事件からまちを守る」 (社会科)
- 2 指導方針
 「地域こども見守り隊」隊長の講話、グループ活動や全体交流の場を設定することで、仲間の様々な見方や考え方に気付き、交通安全への意識を高めるよう指導する。
- 3 本時の目標
 事故を防ぐための地域の人々の活動に着目し、関係機関が地域の人々と協力して事故等の防止に努めていることを理解する。(知識・技能)
- 4 事前指導
 事前アンケートを実施し、児童が日常生活において事故を防ぐために地域を守っている人について考えていることなどを把握し、本時において、アンケート結果を振り返りながら、地域の人々が安全を守るためにどのような取組をしているかを考える。
- 5 本時の展開

	主な学習活動 ○予想される児童の反応	・留意点 ◎評価
とらえる	1 地域の人々の交通事故や事件を防ぐ取組を調べる。 「まちの安全を守ってくれているのは、警察だけでしょうか。」 ○特に何かしているのかな？ ○まちのおじさんが朝一緒に登校している。 ○マラソン記録会の時に警察ではない人が見守ってくれた。 [課題] 地域の人たちは、安全を守るための取組をしているだろうか。	・事前アンケートと関連させ、興味をもたせる。
もとめる	2 地域の安全を守るしくみについて調べる。 「地域の人たちは、町の安全を守るためにどのような取組をしているか調べましょう。」 ○「子ども見守り隊」の小林さんが声掛けをしている。 ○「子ども110番の家」のステッカーを貼っている人も、子どもを守りたいと言っている。 ○自治会長の齋藤さんが、安全会議の話をしている。PTAや学校とも協力しているみたい。 3 どのような人が、どのような活動をしているのか発表する。 疑問点や、それに対する考えがあれば発表する。	・「だれが」と「どのような活動」を書くように指示する。 ・書いた後に発表することをあらかじめ伝えておく。 ・書くことが苦手な児童は、写真を丸で囲むなどの指示をして支援する。
ひろげる	4 自分たちの地域の活動と比較する。 「渚滑の町も地域の人たちの活動は同じでしょうか。」 ○安全会議はあるのかな。 ○110番のステッカーは見たことがある。 ○朝、子どもと一緒に歩いているおじさんは、「見守り隊」なのかな？ 5 ゲストティーチャーの学校運営協議会会長（渚滑の子どもを守り隊隊長）をお招きし、疑問を解決する。 ○「子どもを守り隊」が登下校の見守りをしてきている。 ○CS会議で、地域の危険箇所を点検している。 ○「子ども110番の家」の家は、渚滑にもあった。	・導入の児童の発言を振り返り、自分の住む町について疑問をもたせる。 ・教科書内の記述と比較させながら質問し、回答を参考に理解を深めさせる。
まとめる	6 学習を振り返り、まとめる。 ○地域の人たちは、地域の安全を守るためにいろいろな取組をしている。 ○地域の人に見守られていることが分かった。安全に気を付けたい。	◎安全に対する地域の取組を具体的にあげ、捉えているかどうかをノートの記述や発表内容から評価する。 【知識・技能】

2 実践を振り返って

実践を通して、次の成果及び課題が明らかになった。

1 モデル地域における交通安全教育の推進

【成果】

- ・地域の人材を活用したことにより、児童が主体的に授業へ参加し、地域の安全を守る活動への理解を深めることができた。
- ・児童と保護者が、交通安全について一緒に考える機会を確保することにより、家庭における交通安全意識の高揚を図ることができた。

【課題】

- ・学年によって交通安全教育で身に付けさせたい資質・能力が異なることから、発達段階や児童の実態に即した単元の指導計画を作成する必要がある。

2 通学路合同点検の結果を踏まえた安全確保体制の構築

【成果】

- ・合同点検の結果を踏まえ、関係機関や学校運営協議会との合同会議において安全確保に向けた具体的な取組を協議したことにより、学校、児童生徒、保護者や地域における危険箇所の認識を共有することができた。

【課題】

- ・合同会議の開催について、日程調整が難しい時期があることから、参集による会議だけでなく、オンラインを活用した会議の在り方を検討する必要がある。

3 モデル地域における小中連携による安全確保体制の充実

【成果】

- ・これまで取り組んできたことを交通安全教育の視点から改善し、小中連携した取組を推進することにより、児童生徒を地域全体で育成する組織整備と安全確保体制を構築することができた。

【課題】

- ・持続可能な取組にするために、検証改善サイクルを確立させる必要がある。

〔今後の取組について〕

G I G A スクール構想により、全ての児童生徒に端末が貸与されたことを踏まえ、「通学路安全マップ」等の資料をいつでも閲覧できるようにするとともに、家庭においても親子で通学路の安全を確認、共有できるものとしたと考えている。

本事業で取り組んだ内容について、取組の成果をモデル地域内はもとより、市内全体で共有しながら、各地区の実情に即した内容に改善を図り、地域ぐるみで子どもたちの命を守り抜く取組を実践していく。

3 講 評

学校安全アドバイザー：北海道大学大学院工学研究院
教授 萩原 亨 氏

1 モデル地域による交通安全教育の推進について

- 公開授業において、ゲストティーチャーからの講話を基に、子どもたちが実体験を振り返りながら交流している点が良かった。
- 子どもたちが危険な場所の状況など具体的にイメージしたことを、親子で話し合う時間を設定したことにより、安全意識の向上につながった。
- 今回の実践の成果を、行政が受け止め、危険箇所を改善するための予算付けを行うなど、具体的な取組を進める必要がある。
- 交通安全に係る課題の解決策を明らかにするためには、多様な目線から危険箇所について意見交換し、比較することで、意見が一致した場合と一致しない場合の理由を考察することが必要である。

2 通学路合同点検の結果を踏まえた安全確保体制の構築について

- 合同点検について、現場に行くことで時間がかかってしまい、意見交換をする環境が整わないことから、G o o g l e マップなどのアプリを活用した合同点検を実施したのが良かった。
- 児童は歩行者目線、保護者や教職員はドライバー目線、地域の方は生活経験からの目線で危険箇所について話し合えたのが良かった。

3 モデル地域における小中連携による安全確保体制の充実

- 小中が連携し、関係機関やCS関係者が集って、危険な箇所はどこかという議論を続けており、素晴らしい体制となっていることから、今回の活動を今後も継続してほしい。

防災教育

～ モデル地域 羅臼町 ～

1 実践的安全教育モデル（防災教育）

(1) モデル地域について

羅臼町は、世界自然遺産「知床」を有し、海と山に囲まれ、自然に恵まれているものの、陸地面積が狭いことから、地震や津波による災害が生じた場合、短時間で居住地域に影響が及び、生命に対する危険も高い。

このことから、本町では、平成22年度から防災教育を推進し、大学教授や気象台防災気象官をアドバイザーとした講話を実施し、町内全ての学校において、家庭や地域と連携した避難訓練等を実施している。

しかしながら、児童生徒に防災に関するアンケートをとった結果、地震や津波に関して正しい理解がなされていない状況が見られたことから、児童生徒が防災意識を高め、自然災害に対する理解や災害時の危険予測・回避の能力を身に付けさせるための防災教育を充実させる必要がある。

そこで、知床未来中学校を拠点校として、学校、家庭・地域、関係機関が連携した「1日防災学校」を通じて、主体的に命を守り抜く行動ができる児童生徒の育成を目指し、モデル地域の教職員が連携し、安全教育の充実に向けた体制づくりを推進する。

これまでの取組を踏まえ、次の3ポイントを示す。

(2) 実践的防災教育モデルのポイント

【モデルPOINT①】指導方法や教育手法の開発・普及

○防災教育に係る「モデル単元指導計画」の作成

モデル地域の取組 ～教科等横断的な教育課程の編成（事前学習）

「1日防災学校」の実施に当たり、避難所の開設に必要な知識及び技能、考え方について、理科や社会科、特別活動の学習内容と関連させ、教科等横断的な視点で育成することができるよう、教育課程の編成を行った。

避難所開設を主とした避難訓練（総合的な学習の時間）では、学んだことを活用し、防災や減災に対する共助の意識を高めることをねらいとした。



避難運営ゲーム「D o はぐ」の様子



避難所開設の様子

【モデルPOINT②】地域の連携による安全確保体制の構築

○家庭・地域と連携した防災教育の推進

モデル地域の取組 ～避難訓練を兼ねた「1日防災学校」の取組

生徒の防災や減災に対する共助の意識を高めるため、「1日防災学校」の実施に当たっては、家庭・地域と連携し、地域住民参加型の取組を推進した。

多くの参加を呼び掛けるため、案内ポスターを作成し配布するとともに、町の防災無線を合図に避難できるように、避難時刻を正午に設定した。

地域の方々と連携・協働し避難訓練を実施することで、生徒は災害時に身を守ることの意義を理解し、必要な行動の仕方を身に付けることができた。



町内会に配布したポスター（一部）



「1日防災学校」の新聞記事
2022.9.23 付け釧路新聞（根室版）1面から一部抜粋

【モデルPOINT③】学校間で連携した取組の推進

○幼稚園・小学校・高等学校の中核教員が参加した公開授業及び防災教育の充実に向けた体制整備

モデル地域の取組 ～推進委員会で取組の評価及び改善方策の検討

補充・発展的な学習として、第1学年の理科と関連した防災授業を行い、町内に公開した。なお、講師には、羅臼町及びNHK職員に協力を依頼した。

授業後、研究協議を行うとともに、幼稚園から高等学校までの担当者及びアドバイザーによる推進委員会を開催し、防災教育の充実に向けた学校段階間の連携・接続などの体制整備及び教育課程への位置付けについて議論した。



公開授業（第1学年）の様子



推進委員会の様子

羅臼町立知床未来中学校「1日防災学校(教科等横断的な防災学習)」単元指導計画

- 目 標 生徒が防災意識を高め、自然災害に対する理解や災害時の危険予測・回避の能力を身に付け、自他の命を守る意識と必要な行動の仕方を身に付ける。
- 場 所 羅臼町立知床未来中学校 体育館、理科室、多目的ホール
- 対 象 知床未来中学校全校生徒、全教職員、町内会、保護者
- 単元指導計画

【事前学習】 ※避難所運営ゲーム(Do はぐ)を使用した、避難所開設シミュレーション

時間	内容	主担当(分担)	備考
<100分> 8:35- (1校時) 9:25	①趣旨説明(講師の紹介を含む)<5分> ②説明・演習<80分> 課題 「実際に災害が起こった時に、どんな準備が必要か、避難所運営ゲームを使ってシミュレーションしてみよう」	<ul style="list-style-type: none"> ・趣旨説明:担当教諭 ・説明・演習:講師 ・運営補助:学年教諭 ・振り返り:担当教諭 ・代表生徒指導:学級担任 	<ul style="list-style-type: none"> ・長机 20台(10ペア) ・椅子 50脚 ・プロジェクター ・スクリーン ・音響 ・メモするためのボード ・避難所運営ゲーム(Do はぐ) ・ワークシート
9:35- (2校時) 10:25	演習 「北海道避難所運営ゲーム(Do はぐ)」 ③振り返り<10分> ④お礼の言葉(学級の代表者1名)<5分>		

【当日】 ※避難所開設の知識の習得&リアル避難所開設

時間	内容	担当	備考
8:35- (1校時) 9:25	(理科)消火訓練 課題 「消火のメカニズムを解明し、効果的な消火活動をしてみよう」 演習 「消火訓練」	(消火訓練) ・担当:教科担任 ・羅臼消防署予防課	<ul style="list-style-type: none"> ・理科室で説明 ・PPT使用(資料配布) ・校内消火設備の確認 ・生徒玄関前で消火訓練
9:35- (2校時) 10:25	(社会科)防災講話 課題 「羅臼町デジタル防災マップで身の回りの危険箇所を確認しよう」 演習 「デジタル防災マップの活用」	(防災講話) ・担当:教科担任 ・羅臼町役場総務課	<ul style="list-style-type: none"> ・多目的ホールで実施 ・iPad 使用 ・デジタル防災マップの活用 ・岩見係長は iPad Pro 使用
10:35- (3校時) 11:25	(特別活動)避難所開設 課題 「避難所開設に必要な資材を確認し、実際に組み立ててみよう」 演習 「段ボールベッド等の組立」	(避難所開設) ・担当:教科担任 ・羅臼町役場総務課	<ul style="list-style-type: none"> ・体育館で実施 ・段ボールベッド ・防災テント、トイレ ・防災食の準備
11:35- (4校時) 12:35	<p>【総合避難訓練】</p> <p>11:35 校内サイレン (教頭が放送指示)</p> <p>11:40 避難完了(体育館)</p> <p>課題「地域住民が避難してくることを想定し、避難所を開設し、避難者を受け入れよう」</p> <p>11:45 避難所開設の準備 (各学年)</p> <p>12:00 正午の防災サイレンを合図に避難者の受入れ</p> <p>12:30 避難者受入れ終了 校長講話(まとめ)</p> <p>12:35 終了</p>	<p>(総合避難訓練)</p> <p>・担当:教頭 ・協力:町役場職員</p> <p>※各学年で担当場所の支援をお願いいたします。</p> <p>※消毒をこまめにするよう子どもたちに指導をお願いします。</p>	<p>1年生:防災食の調理・提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害備蓄用パン ・アルファ米 ・防災備蓄食用スープ →袋に入れて渡す <p>2年生:避難者の誘導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校門付近 ・生徒玄関前 ・生徒玄関から体育館 ・体育館内 <p>3年生:段ボールベッド、テント等の設営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・段ボールベッド ・防災テント ・防災トイレ
給食時	防災食の試食 (アルファ米を事前に調理する)		<ul style="list-style-type: none"> ・事後アンケート ・防災食の試食準備 (アレルギー有無の確認)

2 実践を振り返って

実践を通して、次の成果及び課題が明らかになった。

1 防災教育に係る「モデル単元指導計画」の作成

【成果】

- ・教科等横断的に学んだ事前学習の内容を避難訓練（1日防災学校）で活用することができたことによる深い理解が得られた。
- ・地域の方々（校区町内会）と連携・協働して避難訓練を実施したことによる、共助の理解ができた。

【課題】

- ・今後も継続的な取組とするために、年間指導計画の改善とともに学校段階間の連携の推進が必要である。

2 家庭・地域と連携した防災教育の推進

【成果】

- ・地域の方々（校区町内会）の参加による、生徒の共助に対する意欲の向上。
- ・「1日防災学校」の取組を契機に強まった、学校と家庭・地域との連携。

【課題】

- ・町の防災の日に併せて実施するなどした幼稚園児や小学生の参加。

3 幼稚園・小学校・高等学校の中核教員が参加した公開授業及び防災教育の充実に向けた体制整備

【成果】

- ・津波の恐ろしさや、実際に地震があった時の避難の仕方について、VR体験を通じた深い理解につながった。
- ・各学校等で行っている防災教育の取組について、一貫教育の視点での再構築ができた。

【課題】

- ・津波が発生するメカニズム等を踏まえた指導の充実及び各教科等を横断的に位置付けたねらいの達成のための防災教育のカリキュラムの改善を図る。
- ・防災教育に係る幼小中高の連携・接続。

〔今後の取組について〕

- ・羅臼町内の幼稚園、小・中学校、高等学校において、防災教育に係る「モデル単元指導計画」を継続して活用し、改善を図りながら定着を図りたい。
- ・学校、地域、関係機関が連携した体制の中で、地域の親世代への防災にかかわる知識・理解を深める取組を進めていきたい。
- ・羅臼町の「1日防災学校」の取組について、羅臼町役場が発行する広報誌に掲載するなどして、町内で普及していきたい。

3 講 評

学校安全アドバイザー：北海道教育大学釧路校
教授 境 智洋 氏

1 取組の成果について

- 町内全ての学校、幼稚園、小学校、中学校、高校まで一貫して防災教育に取り組まれたのは初めてであり、全道に発信できる内容である。
- 1日防災学校の取組の中で地域を巻き込み、住民に呼び掛けて取り組んだことが大きな成果であった。
- 外部の防災の組織を活用して連携しながら取り組んだことで、外部の連携できる機関があるということが、先生方に理解され、活用できることがわかったことも成果である。

2 取組の課題について

- 次のステップとして幼稚園、小学校、中学校、高校まで継続して取り組むためのカリキュラムの問題がある。各校種でどのように取り組んでいくのか、今回、教科連携の話もあったが、1日防災学校の一部についての教科連携だけでなく、年間を通したカリキュラムの連携も考えて良いのではないか。メカニズムであれば理科との関連、地形であれば社会との関連も出てくる、防災を通した一本の柱、カリキュラムができてくれば、幼稚園、小学校、中学校、高校と繋がる一つの羅臼モデルができるのではないか。
- 総合防災訓練を実施していたり、小学校で避難訓練をやっていたりとまだバラバラなところがあるが、町が呼び掛けることで、町の防災訓練と一緒にすることもできる。そうするともっと住民を巻き込んだ防災の意識の拡大に繋がる。
- NHKと連携できたことは先生方もこういう取組ができることがわかったのではないか。継続できるかが課題であり、継続するシステムを作ることが大切である。
- 継続することの大切さ、正しく怖がることの大切さを伝えたい。羅臼町はこの取組を継続してほしい。

3 講 評

学校安全アドバイザー：気象庁釧路地方気象台

防災気象官 矢萩 知子 氏

1 取組全体について

- 羅臼町は防災について10年前から取り組んでいただいております。今年度は本格的に北海道教育大学釧路校の学生と一緒に授業を実施するなど、羅臼町の防災教育に協力をさせていただいた。町全体として取り組んでいただいたというのがすごくよくわかったところ。

2 「1日防災学校」の取組について

- 自助はもちろん、共助というところがすごくしっかりしていると言える。町内会を巻き込んだり、学校単体ではないというところはすごく工夫されていて良いところ。
- DO はぐも実践していただいたが、こういう取組をやっていくのは大事なことである。実際に被災した場合、避難所の運営は、大人は他の作業で手が回らないことがあることから、実際の避難所運営は中学生、高校生が中心になっていくと思われる。東日本大震災の時も避難所の運営は、小学校高学年から中学、高校という生徒が一生懸命やっていたというのも記事等で拝見したことがある。DO はぐを通して避難所でどのように生活していくのかということを実践して学ぶことができたのはすごく良いことだったと思う。
- 知床未来中から他の学校が近くにないなど、地理的な条件があまり整っていない中で、小学生を中学生や高校生が、幼稚園児を小学生が、どう助けていくのかということも事後の研究会で議論されていたが、できる限りの工夫をしていこうという姿勢が見られてとても良かった。
- 防災についての正しい知識を得ることが大切である。中学生、高校生になると地震、津波のメカニズムを勉強するようになる。例えば、気象台が地震、津波に対してどのような情報を出しているのか等の知識を得ていれば、地震、津波が来ないと思っている大人をも説得していくことができる。正しい知識をもって、正しく避難し、命を守ることが必要なことである。

令和4年度北海道実践的安全教育モデル構築推進委員会

1 学校安全アドバイザー

No	所 属	職	氏 名	分科会
1	株式会社まちづくり計画設計	統括技師	松村 博文	防犯
2	北海道大学大学院工学研究院	教授	萩原 亨	交通
3	北海道教育大学釧路校	教授	境 智洋	防災
4	気象庁釧路地方气象台	防災気象官	矢萩 知子	防災

2 構成員

No	所 属	職	氏 名	分科会
5	北海道PTA連合会	副会長	堀江 裕樹	防犯
6	公益財団法人北海道防犯協会連合会	専務理事	山崎 正史	防犯
7	環境生活部くらし安全局道民生活課	主幹	小池 貴幸	防犯
8	北海道警察本部生活安全部生活安全企画課	課長補佐	篠田 智之	防犯
9	国土交通省北海道開発局建設部道路維持課	道路防災専門官	宮崎 隆徳	交通
10	北海道環境生活部くらし安全局道民生活課	主幹（交通安全）	富樫 崇	交通
11	北海道建設部土木局道路課	課長補佐	高木 広樹	交通
12	北海道警察本部交通部交通企画課	課長補佐	吉田 勝彦	交通
13	気象庁札幌管区气象台総務部業務課	リスクコミュニケーション推進官	望月 隆史	防災
14	国土交通省北海道開発局事業振興部防災課	地域防災専門官	鈴木 孝宏	防災
15	北海道総務部危機対策局危機対策課	課長補佐（教育訓練）	佐々木麻由美	防災
16	東川町教育委員会	課長	大角 猛	防犯
17	紋別市教育委員会	指導主事	濱 哲哉	交通
18	羅臼町教育委員会	指導主幹	横澤 英三	防災
19	北海道教育庁学校教育局生徒指導・学校安全課	課長	泉野 将司	
20	北海道教育庁学校教育局生徒指導・学校安全課	課長補佐	高川 志野	

北海道実践的安全教育モデル構築事業

安全教育モデル

～学校における安全教育・安全管理の充実に向けて～

令和5年（2023年）2月

編集・発行 北海道教育庁学校教育局生徒指導・学校安全課

札幌市中央区北3条西7丁目

011-231-4111
